

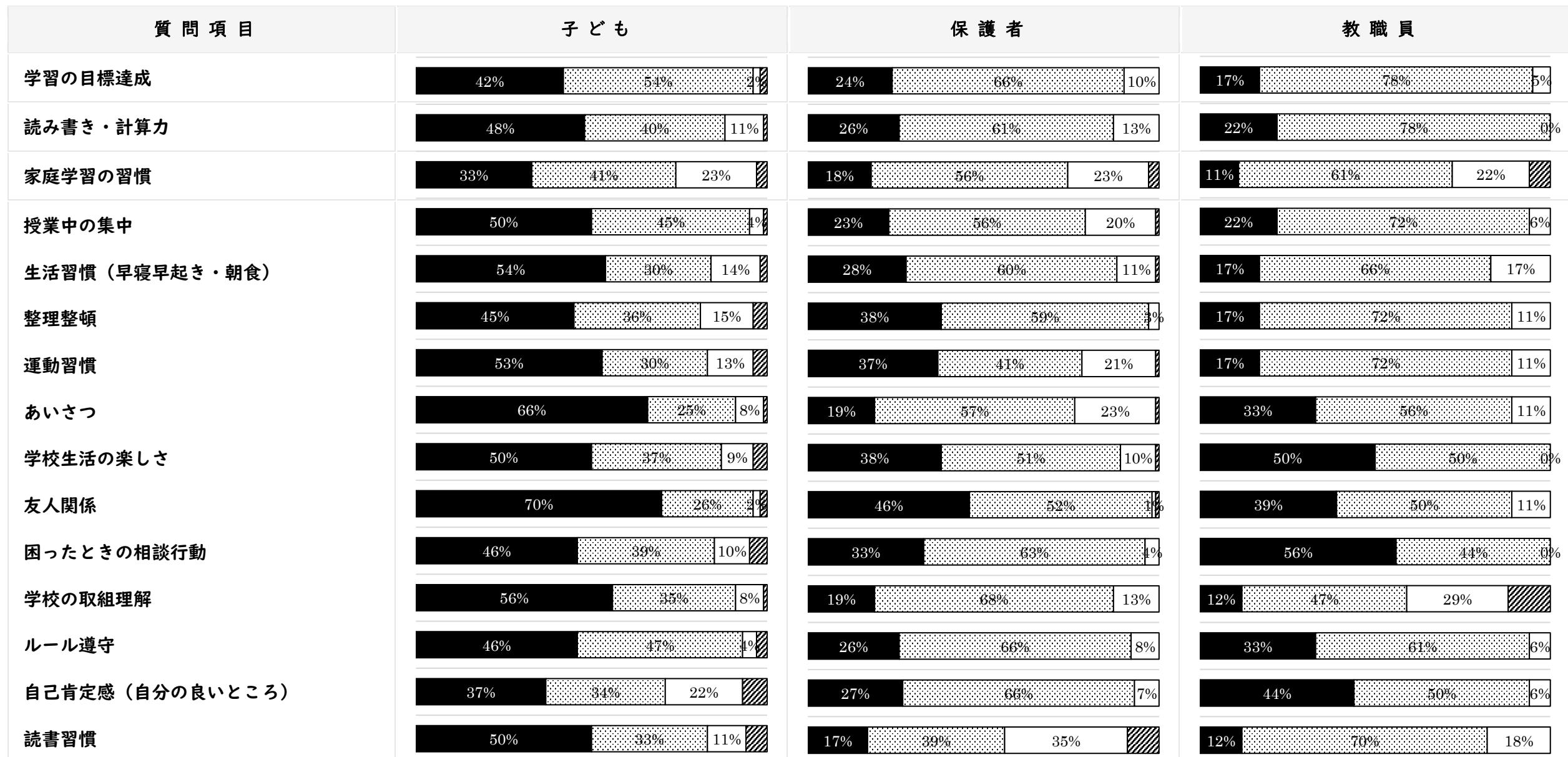


ふれあい

令和7年9月吉日
京都市立第三錦林小学校
校長 吉岡 健一郎

前期学校評価（7月）の結果より

平素は本校教育活動にご理解・ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
 さて、保護者の皆様にはお忙しい中、夏休み前の学校評価にご協力いただきありがとうございました。
 また同時期、子どもたちには日頃の学習や学校生活の様子について、教職員には日常の授業や家庭との連携、学校運営への参画等について、実現度をはかる自己評価を実施いたしました。
 私たちは保護者の皆様からいただきました学校評価と児童の自己評価を通して、自分たちの日頃の取組を見直すきっかけにするとともに、保護者・地域の皆様と一緒に、よりよい教育のあり方を探っていきたいと考えています。今回は、7月の結果をお伝えするとともに、結果から見えてくる課題について分析し、今後の取組に生かしていきたいと思います。



…よくできている

…大体できている

…あまりできていない

…できていない

児童アンケートについて、令和6年度後期と比較した結果

1. 成果(両年度共通・または向上)

項目	傾向
あいさつ	全学年で「よくできている」が最多。継続して高評価。
学校生活の楽しさ	児童の多くが「楽しい」と回答。ポジティブな学校文化が維持されている。
友人関係	「仲良くできている」が安定して高評価。
ルール遵守	高学年でも比較的安定した評価。

2. 課題(特に改善が必要な項目)

項目	傾向と変化
生活習慣(早寝・朝食)	両年度とも「できていない」「あまりできていない」が多め。特に高学年で顕著。
家庭学習の習慣	令和7年度前期では、5・6年生で「できていない」が増加傾向。
読書習慣	両年度ともに評価が低め。特に高学年で読書離れが見られる。
自己肯定感(自分の良いところ)	「言えない」と答える児童が一定数存在。特に高学年で顕著。

3. 改善案

- 朝のルーティン強化:朝食の大切さを伝える保健指導を行い、家庭でも早寝早起きの声かけをする。
- 家庭学習の習慣化:「選べる課題」や「自主学習」など、自主性を促す形式を導入。
- 読書活動の活性化:図書委員会によるおすすめ本紹介や、教員による読み聞かせタイムの実施。
- 自己肯定感の育成:「よいところ見つけ」など、クラス内で互いの良さを伝え合う時間を設ける。

4. まとめ

- 「あいさつ」「友人関係」「学校生活の楽しさ」は継続して高評価であり、学校全体の雰囲気は良好。
- 一方で、「生活習慣」「家庭学習」「読書」「自己肯定感」には継続的な支援が必要。
- 特に高学年においては、自己評価が厳しくなる傾向があるため、心理的サポートや学習支援の工夫が求められる。

～自由記述から～

- ☆下校時間帯などに学校横でたくさんの子どもたちを迎えて車が待機していて危険を感じます。先日、校門前横断歩道を渡ろうとしたら、駐車車両を避けた車がスピードを出して反対車線にはみ出してください、ひやっとすることがありました。他にも同じような話を何度も聞いたことがあります。
- ★ご指摘の通り、特に下校時間帯には、鹿ヶ谷通沿いに送迎の車が並ぶ様子が時折見られます。片側車線がほぼ封鎖され、大変危険な状況です。鹿ヶ谷通り沿いへの駐車はご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

保護者アンケートについて、令和6年度後期と比較した結果

1. 成果(両年度共通または向上)

項目	傾向
友人関係・学校生活の楽しさ	両年度とも高評価(A評価が最多)。児童の人間関係や学校環境は良好。
あいさつ・運動	保護者からの評価が安定して高く、生活面での積極性が見られる。
ルール遵守・清掃活動	学校の取組が保護者に理解されており、児童の行動にも反映されている。

2. 課題(改善が必要な項目)

項目	傾向
読書習慣	両年度ともD評価(できていない)が最多。特に令和7年度前期では9.3%と高め。
家庭学習の習慣	C評価(あまりできていない)が多く、継続的な支援が必要。
学習への意欲	B評価が最多だが、A評価が少なく、意欲の向上に課題あり。
学校の取組理解	B評価が最多(67.7%)で、保護者との情報共有に改善余地あり。

3. 統計的傾向

評価	令和6年度後期	令和7年度前期
A(よくできている)	約29%	約24.2%
B(大体できている)	約56%	約65.8%
C(あまりできていない)	約13%	約10.1%
D(できていない)	約2%	約0~9.4%(項目による)

※令和7年度は「B評価」が増加傾向にあり、全体的に「中程度の達成」が多い。

4. まとめ

- 保護者の評価は全体的に「大体できている」が多く、児童の生活・学習習慣は概ね良好。
- 一方で、「読書」「家庭学習」「学習意欲」「学校の取組理解」には継続的な支援と工夫が必要。
- 学校と保護者の連携を深めることで、児童の成長をより効果的に支援できる可能性が高い。